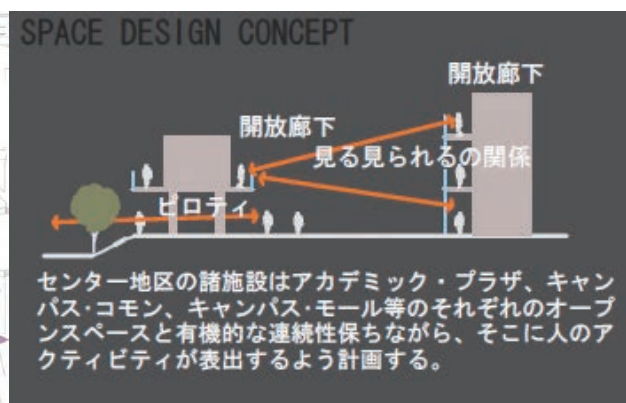
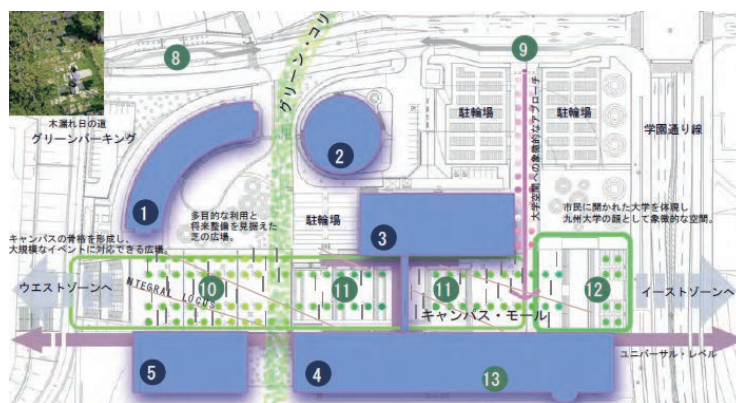


パブリックスペースで学習意欲を喚起する

アクティビティを視覚化する空間構成とデザイン

九州大学 伊都キャンパスセンターゾーン



建物配置や内外の空間構成・色彩計画で、新入生の知的好奇心を刺激するキャンパス。安全性、アメニティ、環境にも十分配慮している。

九 州大学は、「時代の変化に応じて自立的に変革し、活力を維持し続ける開かれた大学の構築」と「それに相応しい研究・教育拠点の創造」をコンセプトとして、伊都キャンパスへの統合移転整備を推進している。

第Ⅱステージとなる今回の整備は、六本松地区を対象としてセンター・ゾーンに約5万㎡の建物の建設を行い、2009年4月より新たに約5600人の学生・教職員が活動を始めた。

全学教育を行うための施設である講義室や語学学習・学生実験室等を備えたセンター1・2号館、体育関連施設として5アリーナを有する総合体育館、66のサークル室を有する課外活動施設、テニスコート7面及び陸上競技場等、そして、大学院関連施設として、比較社会文化・言語文化研究教育棟が整備されている。

さらに、学生・教職員のキャンパスライフをサポートする施設として、食堂及び売店等を備えた生活支援施設「ビッグさんど」、センター2号館1階及び伊都図書館1階ロビーにはカフェが設けられ、そして情報発信拠点の「ビッグオレンジ」にはレストランと書店が設置されている。

センター・ゾーンは、広域な学術研究都市の核となり大学の「知」の象徴となるエリアであるとともに、新入生が最初に触れ



センター1号館



センター2号館



比較社会文化・言語文化研究教育棟

る大学空間であることから、九大生としての誇りを自覚し、若い知性を刺激し、新たな学習意欲を喚起する空間づくりが求められた。そして、キャンパス・モールとのレベル差や吹き抜け空間・色彩計画を活用して「見る・見られるの関係」の空間をつくり出すとともに、多感な学生の心象や感性を豊かに育むことを意図し、キャンパス・モールや施設全体にフレッシュで快活なアクティビティを表出させることで、それが九州大学の活力を象徴するシーンとして、伝統を継承しつつ、新たな九大らしさを創出することが目指された。

■センター1号館③

九州大学の低学年時における全学教育を実施する施設である。学生のキャンパスライフをサポートする事務機能、語学学習、学生実験等の機能を持つ教室群や情報学習室等を設けている。建物は、緩やかに傾斜するキャンパス・モールに沿って配置され、3階フロアレベルをユニバーサルレベルとして、渡り廊下で2号館とつながり、利用者の移動負担を軽減している。

外観は、学生が意欲やエネルギーを与えあうよう閉鎖性をなくし、透明感のあるデザインとしている。また、建物内部には、鮮やかな色彩を採用した溜まり空間を配置して、学生のための環境をつくり出している。

■センター2号館④

センター1号館とともに、全学教育を実施する施設である。全学教育の一般教室（60～500人）40室の他に、1階ピロティ部にカフェテリア、4階に学生の学習・交流の場である「嚶鳴天空広場（Q-Commons）」を配置している。

学園通線からの景観に配慮し、キャンパスの玄関にふさわしいデザインを構築している。特に学生のアクティビティを可視化することで、心象や感性を醸成させることを意図して、透過性の高い素材を用いた屋外開放廊下を設置するとともに、1階ピロティ部に学生の溜り空間「交流プラザ」を設置している。

■比較社会文化・言語文化研究教育棟①

比較社会文化研究院・学府及び言語文化研究院の研究教育施設であり、研究室、多機能（化学・生物・地学・物理等）実験室、及びセミナー室等を配置している。将来は、本部庁舎に使用する予定である。

外観は、九州大学の風格を象徴的に表現し、来訪者にわかりやすく、そして、やさしく迎え入れる重厚な扇形のフォルムとなっている。また、センター・ゾーンの西斜面にあり、キャンパス・モールのアイストップとして、その視認性を高めている。

■ビッグさんど⑤

センター・ゾーンに整備された生活支援施設（ビッグさんど）は、食堂（920席）、喫茶、コ



ンビニ、ATMと、学生の健康をサポートする健康科学センターなどが入る複合施設である。晴れた日にはキャンパス・モーンに面したオープン・テラスでの飲食も可能である。

■ビッグオレンジ（Big Orange）②

ビッグオレンジは、九州大学の情報発信拠点として、また、大学と社会のインターフェイスとしての役割を担う施設である。九州大学の統合移転事業や地域資源に関する情報等をエントランス空間やミーティング・レセプションルーム（60人収容）において、パネルや映像を用いて来訪者に紹介している。また、併設されたレストランは、落ち着いた雰囲気のあるフルサービスを提供し、書店では主に学生用の書籍を販売している。



■安心・安全な環境づくり

○環境に配慮し防犯対策を考慮した照明計画

屋外照明は防犯面での安全性、景観との調和、省エネルギーに配慮するとともに、樹木、植栽、動植物の生体リズムなど環境面にも配慮し、建物の用途、空間の質、建築周囲環境等を把握しやすい計画としている。

○セキュリティポール

キャンパス内には防犯や安全確保の対策として、緊急時に通報ボタンを押すことで、外部通知、威嚇、画像及び音声による状況確認を可能とするシステムを備えたセキュリティポールが配備されている。



■COLOR DESIGN CONCEPT

空間の結節点となる領域を顕在化させたり、建物の入り口付近に結界的な領域を形成させ、学生生活の記憶や語らいなどの思い出づくりに貢献するよう、空間形状に変化を与えたり、壁面の色彩により空間の質を転換させるなど計画されている。



■利便性と快適性を備える歩行空間

○ユニバーサルレベルアクセス、バス・ストップ、駐輪場

センター・ゾーンでは、わかりやすいキャンパスとするため、広幅員のキャンパス・モールによる軸構成に基づく空間が整備されている。また、利用者のアクセシビリティの向上を図るため、バス・ストップ、駐輪場をキャンパス・モールに近接して配置するとともに、起伏の大きいキャンパス内にユニバーサルレベル（地盤高さ36m）のアクセス（通路）を確保し、学園通線を横断する際の移動負荷の軽減と人の流れを円滑にする計画としている。